

諸田遺跡岩丸地区

中津市文化財報告 第31集

2003

中津市教育委員会

例 言

一、本書は中津市教育委員会が2002年度に実施した諸田遺跡岩丸地区の発掘調査報告書である。

一、調査は送電線の鉄塔建設に伴うもので、調査、報告に要した費用は全て九州電力(株)の協力を得た。

一、調査団の構成は下記の通りである。

一、調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	武占 勝也 (中津市教育委員会教育長)		
調査事務	尾畑 豊彦 (中津市教育委員会市民文化センター館長)		
	田中布由彦 (同	文化財係長)
	富田 修司 (同	主査)
	高崎 章子 (同	主査)
調査担当	花崎 徹 (同	主任)

発掘調査中、及び報告書作成にあたり渋谷忠章氏 (大分県教育委員会) 宮内克己氏 (大分県立歴史博物館) にご助言、ご指導を頂きました。

- 一、試掘調査は富田が行った。
- 一、遺物の実測は花崎が行い、製図は金丸孝子 (中津市歴史民俗資料館) が行った。
- 一、現場の遺構実測は花崎が行い、黒川みゆき、黒川洋美、掛布玲子、長岡早苗、榎 仙花、菅 充子、小田久美子の協力を得た。製図は金丸が行った。
- 一、遺構、遺物の写真撮影は花崎が行い、金丸の協力を得た。
- 一、本書の執筆、編集は花崎が行った。

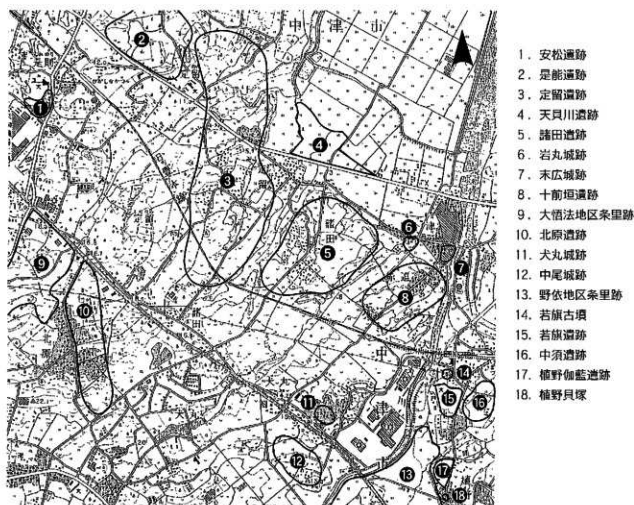
一、発掘作業、及び遺物整理は以下の皆さんの協力による。(敬称略)

若木和美、菅 充子、小田久美子、片桐千鶴、辛島雅美、新田秀勝、榎 仙花、宮久君子、松本貞子、河野孝之、長岡早苗、掛布玲子、黒川洋美、福永美佐子、今永キク子、黒川みゆき、徳永賀子、植山京子、植山ヨシカ、松本 勲

目 次

第1章 地理と歴史的環境	1
第2章 試掘調査	2
第3章 諸田遺跡岩丸地区	
1. 調査の概要	5
2. 調査日誌	5
3. 遺 構	6
(1) 溝状遺構	6
(2) 土 塋	9
(3) ピット状遺構	9
4. 遺 物	9
第4章 小 結	10
図版1	13
図版2	14
図版3	15
図版4	16
図版5	17
抄 録	18

第1章 地理と歴史的環境



第1図 諸田遺跡周辺遺跡図 (S=1/25,000)

1. 安松遺跡
2. 是能遺跡
3. 定留遺跡
4. 天良川遺跡
5. 諸田遺跡
6. 岩丸城跡
7. 末広城跡
8. 十前垣遺跡
9. 大悟法地区条里跡
10. 北原遺跡
11. 犬丸城跡
12. 中尾城跡
13. 野依地区桑里跡
14. 若旗古墳
15. 若旗遺跡
16. 中須遺跡
17. 植野伽藍遺跡
18. 植野貝塚

中津市は大分県の北部に位置し人口約67,000人、市域面積55.58km²である。西は山国川をはさんで福岡県と南は下毛郡三光村、東は宇佐市と接し、北は周防灘に面する。地形は平坦で、台地(洪積台地)と平野(沖積平野)に大別される。今回の調査区大字諸田は洪積台地上に位置し、東側に犬丸川が流れる。犬丸川流域には古代から中世に至る遺跡が分布する。ここで代表される遺跡を概観してみる。縄文時代の遺跡は18の植野貝塚が挙げられる。縄文後期の貝塚で大分県指定の史跡である。弥生時代の遺跡は3の定留遺跡、5の諸田遺跡、15の若旗遺跡、10の北原遺跡が挙げられる。いずれも遺物包蔵地として周知される。古墳時代の遺跡は2の是能遺跡、5の諸田遺跡、8の十前垣遺跡、14の若旗古墳、16の中須遺跡が挙げられる。集落跡が犬丸川下流域に分布し、海にかかわる集団の存在が推測される。奈良時代の遺跡は9の大悟法地区条里跡が挙げられる。中世の遺跡は6の岩丸城跡、7の末広城跡、11の犬丸城跡、12の中尾城跡が挙げられる。中津市内では中世城館が32ヶ所周知される。

第2章 試掘調査

1. 調査に至る経緯

中津市の北東部、今津干拓地では平成16年度操業を目指しダイハツ車体(株)の工場が建設されている。平成14年10月に九州電力(株)よりダイハツ車体(株)へ送電する鉄塔建設が中津市教育委員会へ照会された。これを受け7ヵ所の試掘調査を実施した。なお第2図の第1地点は平成10年度に発掘調査が実施されていることから対象外とした。

第2地点 重機によりトレンチを2本(幅1.5m長さ9m)掘削。
遺構、遺物なし。

第3地点 周知遺跡内 諸田遺跡
重機によりトレンチを2本(幅1.5m長さ8m)掘削。
溝状遺構を2本検出。本調査の必要あり。

第4地点 重機によりトレンチを2本(幅1.5m長さ9m)掘削。
遺構、遺物なし。

第5地点 周知遺跡内 十前垣遺跡
重機によりトレンチを2本(幅1.5m長さ6m)掘削。
遺構、遺物なし。



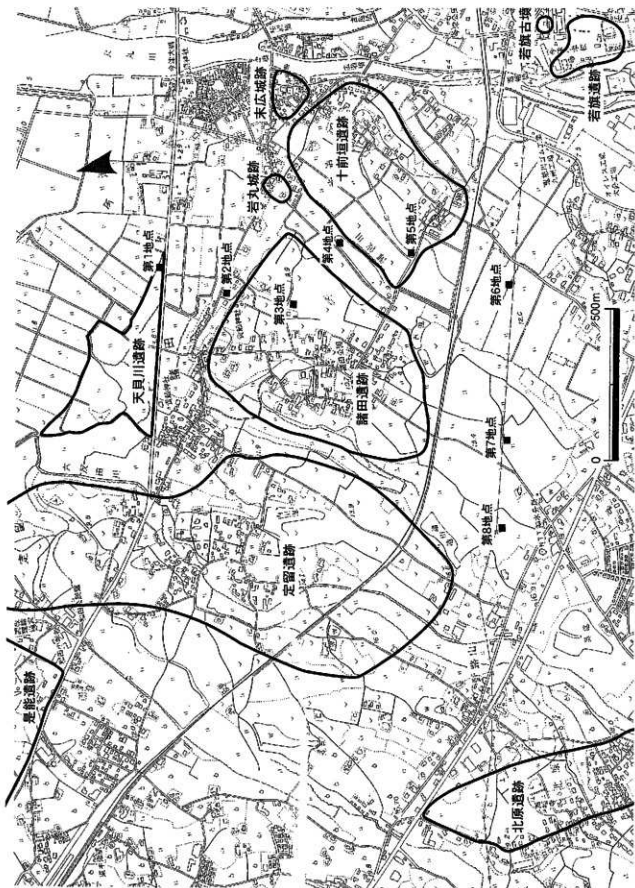
第2地点



第4地点



第5地点



第2図 铁塔建設地周辺図

第6地点 重機によりトレンチを2本
(幅1.5m長さ10m)掘削。
遺構、遺物なし。

第7地点 重機によりトレンチを2本
(幅1.5m長さ10m)掘削。
遺構、遺物なし。

第8地点 重機によりトレンチを2本
(幅1.5m長さ13m)掘削。
遺構、遺物なし。

試掘調査の結果、第3地点で遺構が確認された。九州電力(株)と協議を行い鉄塔建設予定地の変更ができないことから第3地点の本調査を実施することを決定した。なお第3地点は小字「岩丸」になり、諸田遺跡岩丸地区と命名した。



第6地点



第7地点



第8地点

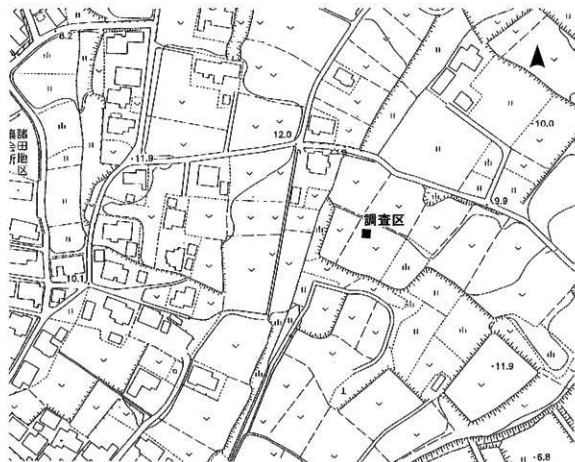
第3章 諸田遺跡岩丸地区

1. 調査の概要

諸田遺跡岩丸地区は標高11m程の台地上に位置し、弥生、古墳時代の遺物包蔵地として周知される。平成13、14年度、隣接する岡地区で農業基盤整備に伴う発掘調査が実施され、溝状遺構が居住区域を区画する居館が検出された。また14年度調査区北側では縄文時代前期と思われる陥穴、土壇などが検出された。岩丸地区（鉄塔建設予定地）周辺は堀跡と思われるクリーク状の地形が現在でも確認でき中世の遺跡の存在が期待された。重機により掘削した。表土より1m掘り下げ赤褐色の地山に達した。人力で遺構検出を行った。検出した遺構は溝状遺構4条、土壇2基、ピット12基である。

2. 調査日誌

平成15年3月10日	現場事務所、仮設トイレ設置。
3月11日	レベル（標高）の移動、発掘道具運搬。
3月12日	重機による掘削、人力で遺構検出。
3月13日	遺構検出、クイ打ち、調査区の壁十層区。
3月18日	遺構検出写真、平板測量、溝掘り下げ。



第3図 諸田遺跡岩丸地区周辺図

(1/2,500)

3月20日	溝掘り下げ、溝の土層図。
3月24日	溝掘り下げ、溝の写真撮影。
3月25日	土層図、平面図 (1/20)。
3月26日	土層図、平面図 (1/20)、遺物取り上げ。
3月27日	現場清掃、全体写真撮影、周辺写真、周辺の平板測量。
3月28日	現場事務所撤去、埋め戻し、現場終了。

3. 遺構

(1) 溝状遺構

溝状遺構は調査区内で4条検出された。南北方向に2条、東西方向に2条である。同方向の2条は平行に位置する。以下、溝状遺構はSDと表記する。

SD-1

SD-1は調査区の東側で検出された。幅約42cm、深さ約5cmである。一部SD-4に切られる。暗褐色の上が埋上する。出土遺物は1点もない。

SD-2

SD-2は調査区の中央部で検出された。幅約72cm、深さ約20cmである。一部SD-3、SD-4に切られる。埋上はSD-1と酷似する。出土遺物は1点もない。

SD-3

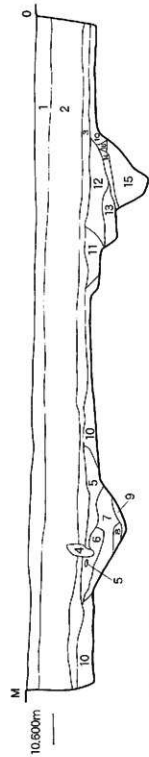
SD-3は調査区の南側で検出された。幅約134cm、深さ約50cmである。SD-2を切る。断面は逆台形を呈す。埋上層に黄褐色の粘質土が3~10cmほど確認された。

SD-4

SD-4は調査区の中央部で検出された。幅約120cm、深さ約25cmである。SD-1、SD-2を切る。断面は浅い皿状である。SD-3と同様に黄褐色の粘質土が上層で確認された。



完掘状況 東側から

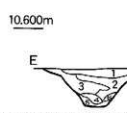
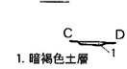
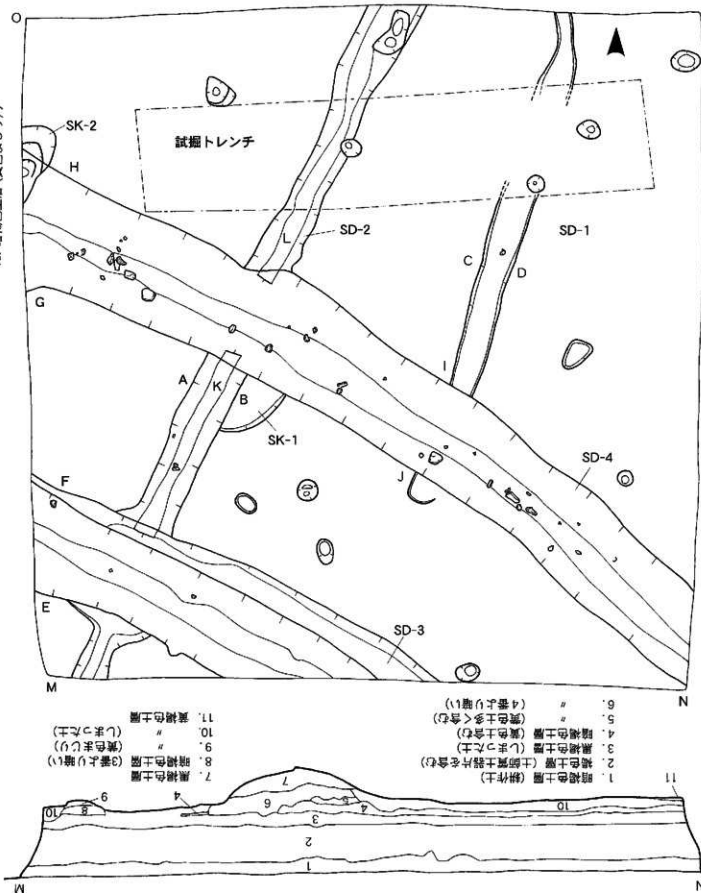


11. 暗褐色土層 (黄色まじり)
 12. 暗褐色土層 (黄色少まじり)
 13. " (ポロポロした土)
 14. 暗赤褐色土層
 15. 暗褐色土層
 16. 暗褐色土層 (黄色まじり)
- } 土層の埋土

6. 暗褐色土層 (6より明るい)
7. " (ポロポロした土)
8. " (5等と同じ)
9. " (5等と同一)
10. 暗赤褐色土層 (しまった土)

1. 暗褐色土層 (耕作土)
2. 褐色土層 (土質黄土片を含む)
3. 黒褐色土層 (しまった土)
4. 暗褐色土層 (ポロポロした土)
5. " (黄色の土を含む)

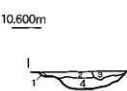
11. 暗褐色土層 (耕作土)
10. " (しまった土)
9. " (黄色まじり)
8. 暗褐色土層 (6より明るい)
7. 暗褐色土層 (6より暗い)
6. " (4番より暗い)
5. " (黄色土層を含む)
4. 暗褐色土層 (7より暗い)
3. 暗褐色土層 (しまった土)
2. 褐色土層 (土質黄土片を含む)
1. 暗褐色土層 (耕作土)



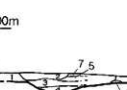
1. 暗褐色土層 (黄色まじり粘質土)
2. " (ポロポロした土)
3. " (黄色まじりポロポロした土)
4. 暗褐色土層
5. 暗褐色土層
6. 暗褐色土層



1. 暗褐色土層 (黄色まじり粘質土)
2. 暗褐色土層 (粘質土)
3. 暗褐色土層 (粘質土)
4. " (黄色まじり粘質土)



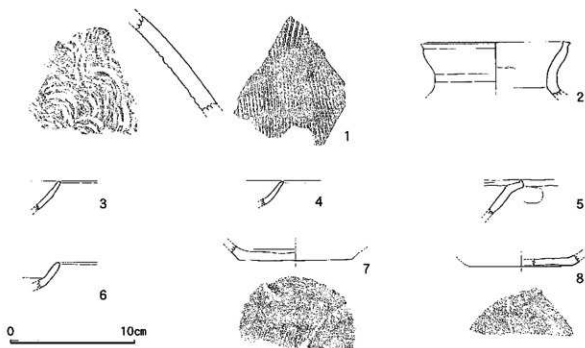
1. 黄色土層 (地山)
2. 暗褐色土層 (黄色まじり粘質土)
3. 暗褐色土層 (粘質土)
4. 暗褐色土層 (ポロポロした土)



1. 暗褐色土層
2. " (黄色まじり粘質土)
3. " (粘質土)
4. " (粘質土)
5. 暗褐色土層 (黄色少まじり)
6. 暗褐色土層
7. 暗褐色土層 (粘質土)



第4図 諸田遺跡岩丸地区平面図、土層図



第5図 諸田遺跡岩丸地区出土遺物

(2) 土壌

土壌は調査区内で2基検出された。いずれも全景は不明である。以下、土壌はSKで表記する。
SK-1

SK-1は調査区の中央部で検出された。SD-2、SD-4に切られる。浅い皿状を呈す。出土遺物は1点もなく時期、性格とも不明である。

SK-2

SK-2は調査区の西側で検出された。SD-4に切られる。地山からの深さは約70cmである。黒褐色の埋土で、出土遺物は1点もない。時期、性格とも不明である。

(3) ビット状遺構

ビット状遺構はすべて浅く柱穴になるものは確認されなかった。直線に並ぶものもなく出土遺物はない。

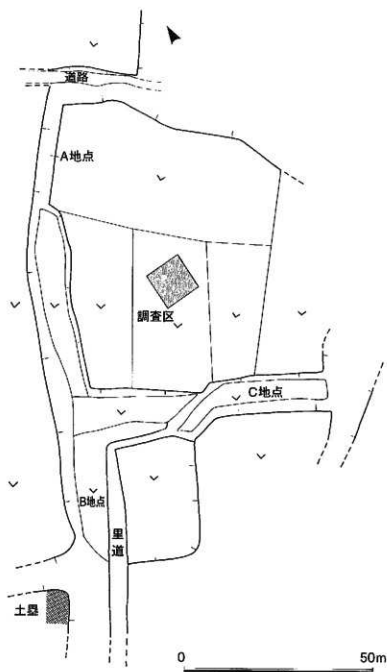
4. 遺物

第5図の1~5はSD-3から出土したものである。1は須恵器の胴部になると思われる。内面に同心円文、外面に平行タキを施す。2は須恵器の壺の口縁部か。復元口径10.8cmを測る。口縁部は丸みを持ちながら上方へのび端部は内湾し方形を呈す。灰褐色で焼成は良好である。3は瓦器碗の口縁部である。胴部外面に指押さえを施す。口縁部は上外方へのび端部は丸い。4は土師器の杯の口縁部である。口縁部は上外方へのび端部はやや外反ぎみ。5は土師器の皿の口縁部である。口縁部は上外方へ短くのびる。中世のものであろう。6~8はSD-4から出土したものである。6は土師器の杯の口縁部か。口縁部は上方へのび端部はやや外反ぎみ。7は土師器の杯の底部になる。復元底径9.2cmを測る。底部に糸切を施す。8も土師器の杯の底部になる。復元底径8.4cmを測る。底部に糸切りがわずかに残る。

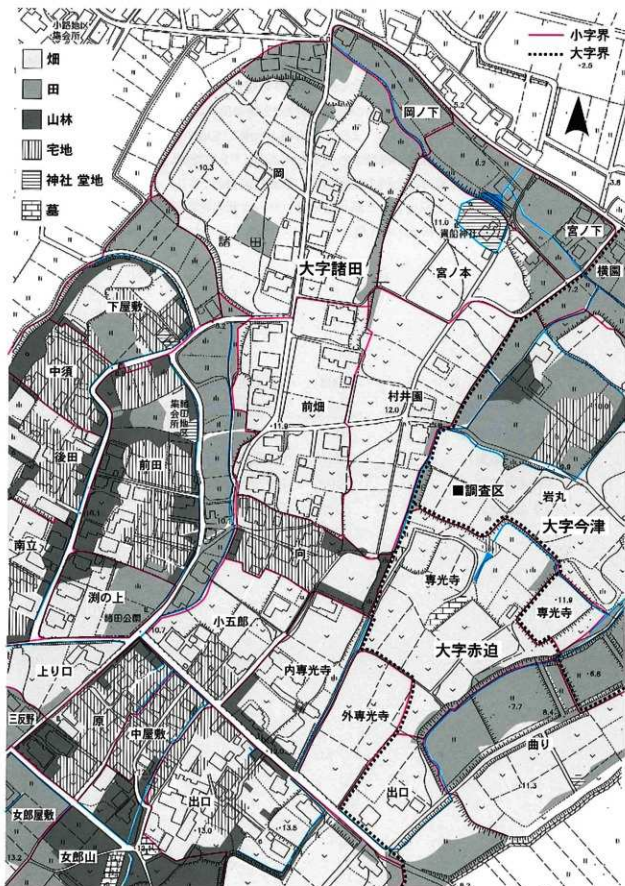
第4章 小 結

今回の調査区から溝4条、土壘2基などが検出された。南北に検出されたSD-1、SD-2は平行に走る。出土遺物が1点もなく時期は特定できない。しかし埋土や溝の形態から同時期になるものであろう。東西方向のSD-3、SD-4も平行に走る。SD-3、SD-4からは古代～中世に至る土器片が出土し、埋土上層で黄褐色の粘質土が約3～10cm観察される。溝は同時期に人工的に埋められ整地されたものと推測される。SK-1も同様の状態である。SK-2は今回、検出された遺構で最も古いものになると思われる。出土遺物は1点もなく時期の特定はできない。ピット状遺構も遺物がなく時期の特定はできないが埋土はSD-1、SD-2と酷似する。今回の調査区は狭く検出された遺構の性格が判断できなかった。しかし周辺の地形や明治時代の地日から遺跡の性格を推測してみる。調査区周辺は標高11mほどの台地が舌状に広がる。第6図は調査区周辺を平板測量したものである。A～C地点でクリーク状の地形が窺われる。A地点は深さ約2m、幅約10mである。この地形は約50m続き、東側(C地点)からのクリークにつながる。また南側(B地点)までこの地形が続く。B地点の南側でわずかに土壘状の高まりが残る。これがクリークに伴うか不明である。A地点の北側は舗装された幅約2.5mの道路が台地を切る。道路と台地の比高差は約1.5mである。

これより北は調査区とはほぼ同じ標高の地形が北へのびる。調査区の東側は雑木が生い茂り測量できなかったが、調査区周辺は方形に区画されたものであろう。この区画された台地上では容易に土師質の土器片が表採できる。また周辺に同様の地形が点在する。第7図



第6図 調査区周辺地形図



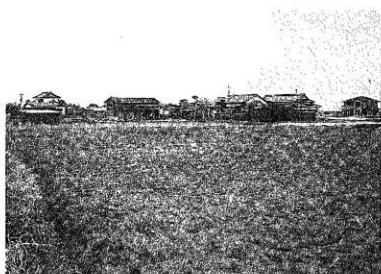
第7図 諸田遺跡周辺地目図

は調査区周辺の明治21年の字図をもとに、地目を表したものである。調査区は字「岩丸」の西端にあたりクレーク状の地形は田（現在、畑地）で表記されている。細長い水田は字「横園」へのびる。字「宮ノ木」の西側で同様の地形が観られる。前記したが字「宮ノ木」は平成13年度、農業基盤整備に伴い発掘調査が実施され溝状遺構で住居区域を区画する居館が検出されている。字「岩丸」の南西、字「向」の字界は山林の表記である。これは第6圃の土塁の位置と重なる。字「向」の西側、南側で字界に山林が鍵の手状に表記される。またこの山林の内側で宅地が形成され、字「下屋敷」、字「中屋敷」、字「女郎屋敷」など居館が推測される字名がある。『下毛郡誌』には岩丸城の存在が掲載される。以上のことから諸田遺跡の北側は中世城館に関連する区域になり、ムラ全体が城郭化したものであろうか。今回岩丸地区で検出された溝状遺構はクレーク状の地形とほぼ平行、また直行する。根拠に欠けるが居館に関連する何らかの性格をもつものではなかろうか。今後の周辺調査が期待される。

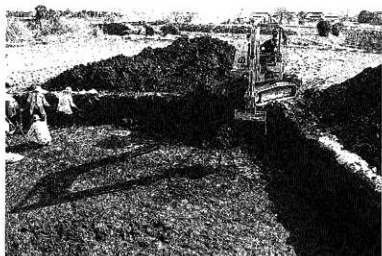
(参考文献)

『八坂の遺跡』Ⅲ	2003	大分県教育委員会
『大分の中世城館』第3集	2003	大分県教育委員会
『長者屋敷遺跡』	2001	中津市教育委員会
『石堂池遺跡』	2003	中津市教育委員会
『停車場遺跡』	2002	中津市教育委員会
『下毛郡誌』	1912	山本利夫

図版 1



発掘前風景



調査風景



調査風景

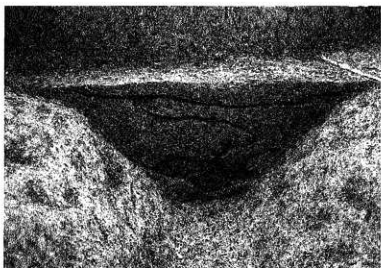
図版 2



遺構検出状況 北側から



SD-3



SD-3 土層 E-F

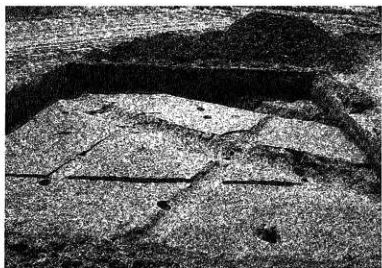
図版 3



SD-4



SD-4 土層 I-J



完掘状況 北側から

図版 4



調査区周辺状況 A地点

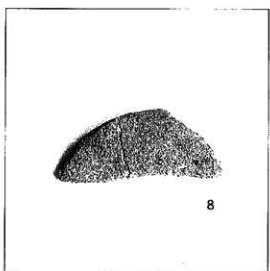
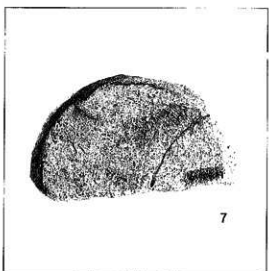
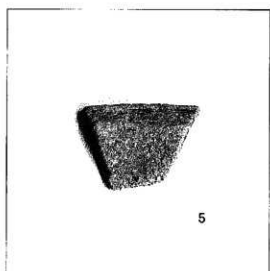
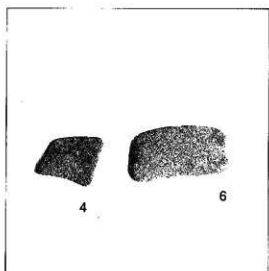
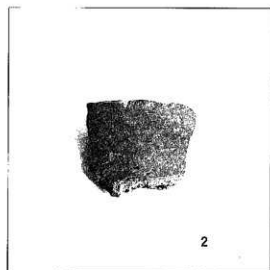
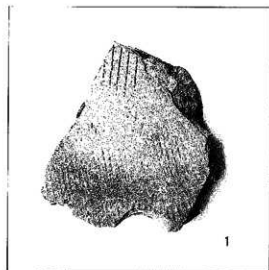


調査区周辺状況 B地点



調査区周辺状況 C地点

图版 5



報 告 書 抄 録

書 名	しる たい せき いわ まる ちく 諸田遺跡 岩丸地区							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第31集							
編 著 者 名	花崎 徹							
編 集 機 関	中津市教育委員会							
所 在 地	大分県中津市豊田町14-3							
発 行 年 月 日	2003年11月28日							
所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
諸田遺跡 岩丸地区	大分県中津市 大字今津435 番地	44203	101090	33°	131°	030310~ 030328	81㎡	鉄塔建設
				34°	15°			
				33°	28°			
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項			
諸田遺跡 岩丸地区		古墳 中世	溝	土師器 須恵器				

諸田遺跡岩丸地区

中津市文化財報告 第31集

2003年11月28日

発行 中津市教育委員会
印刷 熊川家の印刷社